

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4676100169号		
法人名	有限会社 ふれあい企画		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒899-5103 鹿児島県 霧島市 隼人町 小浜 3070 (電話) 0995-43-0716		
評価機関名	NPO法人自立支援センター鹿児島福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年5月2日

【情報提供票より】(平成21年 2月21日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 30 日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	36 人	常勤36人, 非常勤0人, 常勤換算36人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て1棟 / 鉄筋建ての2棟		
	平屋1階部分及び鉄筋2階建ての2階部分と3階建ての1階・2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050円

## (4) 利用者の概要(2月21日現在)

利用者人数	31名	男性	10名	女性	21名
要介護1	10名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.35歳	最低	68歳	最高	101歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳重クリニック、大井病院、隼人温泉病院、桐原歯科診療所、小島泌尿器科皮膚科
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

加治木の町と錦江湾と桜島が一望できる高台に開設され、緑の木立の中の自然環境に恵まれたホームである。管理者・職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し「認知症のお年寄りから学ぶ」という運営者の考えをもとに日々のケアにあたっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の「地域との交流」は、過疎化が進む地域の中にあって運営推進会議等で話し合い、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価を行ない、主任と計画作成者がまとめた。話し合いを行ないながら改善への取り組みが行なわれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を行い、家族・地域の方々にも参加してもらっている。市町村との連携も取れており、さらなる充実を図る取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年2回開催し意見や要望を聞き、また面会時にも家族の意見や要望を聞いている。意見や要望は検討して運営にも反映させる努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の文化祭、夏祭り等の行事への参加をしたり、町内の初午祭、棒踊り等にも参加している。小中学校の体験学習の受け入れを行なっている。また、ホームの行事である花見や夏祭り等に近隣の方に参加してもらいながら、地域との交流が図られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者への理解と尊厳という事業所の理念に加えて、地域住民との挨拶や声かけなどを大切にする具体的なユニット毎の理念を作りあげて、地域密着型サービスとしての理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を唱和しながら、また、全体集会の折にも管理者が理念についての話をし、職員も理念を理解して、日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	過疎化が進んでいる地域であるが、小浜地域の夏祭り、文化祭等に参加したり初午祭にも参加している。介護体験希望者や囲碁等のボランティアの受け入れや小中学校の体験学習の受け入れも行ないながら地域との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行ない、ユニット毎にミーティングを行なった。外部評価の実施の意義を理解し改善への取り組みも行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合ったことや意見等を、日々のケアやサービスの向上に活かす取り組みを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関に出かけて行き、担当者といろいろな情報交換を行ない、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に写真付の手紙を出して個別の様子を記録して、個々にあわせた報告をしている。金銭管理は行なっていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を行い要望等を聞いている。面会時には職員が声かけを行い、苦情や要望を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職時は、引き継ぎに気を配り、利用者・家族と馴染みの関係ができるまで一緒にケアを行なっている。家族には、面会時に異動職員の紹介をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修会、法人内の研修会を定期的に行ない、外部の研修会にも参加している。資格を取るための協力体制もできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区グループホーム協議会に参加している。スタッフ同志がお茶を飲みながら懇談するジョイフル会議にも参加し、他地域の同業者や法人内のグループホームとの交流も図れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者には家族と一緒に来所してもらったり、また自宅に訪問している。職員や他の利用者に馴染めるように、家族とも相談しながら取り組みを行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお茶を飲んだり散歩をしたり歌を歌ったり利用者が作ったパズル等を一緒にしている。利用者から学ぶことも多く、お互いに支えあう関係作りに努めている。		
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や声かけを行ないながら、ひとり一人の意向や希望を把握するように努めている。困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族に思いや意見を聞いたり、職員と話をしながら、介護計画の作成を行なっている。また、ケア記録を計画している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1回行なっている。職員もケアプランに沿ってケアを行なっていて、介護計画の見直しは定期的に行なっている。状態変化がみられる時は、計画の検討・見直しを随時行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望や状況に応じて、通院介助・外出支援・理美容院への送迎等、多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や本人家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。定期的に往診や診察を行なっている。歯科は訪問診療の時もある。その他の他科受診も適切な治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期について文書化しており、かかりつけ医、職員とも共有している。また、家族の希望を聞きながら話し合いを行なっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	起床時間や朝食時間等、本人の希望や意向等に気をつけながら日々のケアを行なっている。記録や個人情報についての取り扱いにも配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、朝食時間等は本人ペースで行なっている。一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の希望にそって支援できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間ごとの献立表は利用者と相談しながら作っている。職員と利用者は、同じテーブルで一緒に食べて、準備や片付けも一緒に行ない、食事を楽しむことができる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、本人の希望を聞きながら、いつでも入浴できるように努めている。一番風呂が好きな人がいるが他の利用者とのこともあり、順番表を作成している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑づくり、囲碁、大工仕事、だご作りや演説の好きな人には代表挨拶をしてもらっている。利用者一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、天気の良い日は外で過ごしている。できるだけ戸外に出かけられるよう外出支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。全職員が鍵をかけることへの弊害を理解していて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くの消防団に参加してもらい定期的に避難訓練を行なっている。また、3ヶ月に1回は避難訓練・避難経路・消火器の使い方等の訓練も行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取状況をチェック表に記録し支援している。定期的に法人内の栄養士が栄養バランスを見ている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や季節の花が飾られていて、食堂兼リビングで利用者は、テレビや雑誌を見たりしながら、ゆっくりと日々過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口の表札に亡くなられたご主人の名前を掲げていたり、仏壇・位牌・箆箭・写真・時計等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。